

2:12 また、ペルガモにある教会の御使いに書き送れ。『鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。2:13 「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの王座がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでも、わたしに対する信仰を捨てなかった。2:14 しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行わせた。2:15 それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。2:16 だから、悔い改めなさい。もしそうしないなら、わたしは、すぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦おう。2:17 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかにだれも知らない、新しい名が書かれている。』』

導入

聖書を読んでまず気づくのは、聖書の訳によって町の名が微妙に違うことです。通常、日本語は新改訳を使用しますが、そこには「ペルガモ」と訳されています。新共同訳では「ペルガモン」と訳されています。では、どちらが正しいのでしょうか。実は、どちらも正解ですが、ペルガモンという呼び名のほうが現地住民に浸透していました。

町について

ペルガモンは 400 年間も首都だった歴史ある町です。町は、地中海へ通じるカイコス河畔の丘陵地帯にありました。天気の良い日には、町から海が見えたそうです。ペルガモンは当時、アジア地方の最高の町とたたえられました。そこは高貴な町だという印象を旅人に与えました。ペルガモンは文化と教養の町でもありました。有名なペルガモン図書館は、羊皮紙図書の蔵書数が 20 万冊を超えていました。羊皮紙のことを英語で「パーチメント」と言いますが、この語源となったのがこの町の名である「ペルガモン」です。

ペルガモンは、アジア地方の宗教の中心地でもありました。そこには、有名な神殿がふたつありました。そのひとつは、約 250 メートルの丘の上にあり、ゼウス神にささげるいけにえの煙が一日中立ち上っていました。その神殿の土台部分には、木の彫刻が施されています。その彫刻が描くのは、ギリシャ神が野蛮な巨人と戦って勝利した様子です。このゼウスの大祭壇がサタンの王座だと指摘する学者たちもいます。ペルガモンは、アスクレピオスと呼ばれる神も崇拝していました。この癒しを司る神は、ペルガモの神として知られ、病からの解放を望む人々がヨーロッパ全域からペルガモンを訪れました。治療は祭司と医者の手で施されました。古代の医学史に名を残すガレノスはペルガモンの出身でした。ですから、この町で実際に治療が施されていたことが分かります。初期の医学による治療もあれば、サタンの業もあったでしょう。体の癒しとサタンは通常結びつきません。聖書では、サタンは「人殺し」と呼ばれています。ですから、癒しの力を持っていると言う人を訪ねる場合は注意が必要です。

私は聖書学校で、オカルト的なものに影響を受けた人のカウンセリングについて少し学びました。ひとつ今でも印象に残っているのは、癒しの働きをしていた男性の証です。彼は信徒ではありませんでしたが、多くの人が彼に癒してもらおうと彼のもとを訪ねました。実際に癒されて喜んで帰った人たちもいました。ある日、この男性は自分の罪を悔い改め、主イエスの救いを受け入れ、信じました。彼のうちにあった罪の力が打ち壊され、男性は平安と喜びを得ました。しかし、彼が救われると同時に、彼が癒した人たちの病気がその人たちに戻ってきました。

日本には、いろいろな願いを叶えてくれると言う人たちがたくさんいます。そして、祈祷料を請求されます。そのような人たちのところに行かないでください。イエスのところに行ってください。このお方が道であり、真理であり、永遠のいのちをお持ちのお方だからです。イエスは癒す力をお持ちですが、必ずしも癒してくださるとは限りません。昔スイスに、癒しの働きをしている男性がいました。ヨーロッパ各地からたくさんの人々が神の癒しを求めて彼のもとにやってきました。彼はうそ偽りのない人で、誰に対しても同じように祈りました。その祈りは次のような内容です。「神さま、もしこの人を癒されることであなたがさらに栄光をお受けになるのであれば、どうか癒してください。もしそうでないなら、病気を持ちながら生きていく恵みと力を与えてください。アーメン」こうして、癒される人も癒されない人もたくさんいました。癒された人々は、神の全能の力によって聖霊をとおして癒されました。

では、この町の背景についてわかりましたので、今日の聖書箇所への学びに入りましょう。

今日の箇所が目すべき点はいくつかあります。まず、イエスが持っておられる物の説明です。

1. イエスは、鋭い、両刃の剣を持っておられる。(12 節)

当時のローマ帝国の総督は、ふたつの階級に分かれていました。剣を持てる人と持てない人です。剣を所持する権利のある人は、人の生死を左右する力を持っていました。つまり、裁判をせず死刑を言い渡すことができたのです。剣を所持する権利のあるペルガモンの総督は、クリスチャンを処刑する力をいつでも行使できました。イエスはペルガモンのクリスチャンに、生死を左右する最終の発言権を持つのはよみがえりの主イエスご自身であると思ひ起こさせておられます。イエスは今も、鋭い両刃の剣を持つお方です。当時のローマ帝国は確かに悪魔のような強さでしたが、よみがえりの主イエスは、サタンよりも偉大な力の持ち主です。私たちの時は、人の手ではなく、神の御手の中にあります。ダビデは詩篇 31 : 15 で、「私の時は、御手の中にあります。」と言いました。神が私たちの時を決めてくださると確信すれば、何よりの励みになります。

2. イエスからの褒め言葉 (13 節)

イエスは、「アンテパス」が殺されたときもこの教会が信仰を失わなかったことを褒めてくださいました。「アンテパス」という人物は新約聖書の他の箇所では登場しませんが、この人物が「わたしの忠実な証人」と呼ばれているところに注目したいと思います。これは、イエスご自身がこの人に向けられた言葉です。ここで注目したいのは、聖書の訳によっては「殉教者」と訳された「証人」という単語です。初代教会の時代は、証人であることは、同時に殉教者になることを指しました。イエスの証をすることは死と隣り合わせだったのです。

これは現在、イスラム教国に住む多くのクリスチャンにとっての課題です。私たちは、証をするチャンスを賢く用いましょう。

ここでイエスは、この人物を非常に高く評価しておられます。というのも、イエスが使われた褒め言葉は、ご自身を表す呼称でもあったからです。

黙示録 1 : 5 と 3 : 14 を見てみましょう。

黙示録 1:5 また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、

黙示録 3:14 また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。『アーメンである方、忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源である方がこう言われる。

これは私たち全員にとっての課題です。どんな状況でもイエスを証する力が与えられるよう祈りましょう。

3. イエスからの非難 (14-15 節)

ペルガモの教会にはおもにふたつの誤りがありました。

聖書には、バラムの教えとニコライ派の教えと記されています。

このふたつは関連していますが、まず、ニコライ派について見ていきましょう。

この異端の創始者はニコラオという名の男性でした。

その名は、「人を征服する」という意味です。

この異端に関する聖書の記述はあまりありませんが、初代教会の歴史学者がこの異端について明らかにしています。

初代教会の歴史学者の多くは、この偽りの教えとアンテオケの執事のひとりとの関連を指摘します。

使徒 6 : 5 を読んでみましょう。

使徒 6:5 この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、

ニコラオはユダヤ人ではなく異邦人でしたが、ユダヤ教の教えを信じ、のちにクリスチャンになりました。

この教えのおもな誤りは、恵みの乱用と放縦な生き方です。

使徒 15 : 22-29 を読んでみましょう。

使徒 15 : 22-29

15:22 そこで使徒たちと長老たち、また、全教会もともに、彼らの中から人を選んで、パウロやバルナバといっしょにアンテオケへ送ることを決議した。選ばれたのは兄弟たちの中の指導者たちで、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスであった。 15:23 彼らはこの人たちに託して、こう書き送った。「兄弟である使徒および長老たちは、アンテオケ、シリア、キリキヤにいる異邦人の兄弟たちに、あいさつをいたします。 15:24 私たちの中のある者たちが、私たちからは何も指示を受けていないのに、いろいろなことを言ってあなたがたを動揺させ、あなたがたの心を乱したことを聞きました。 15:25 そこで、私たちは人々を選び、私たちの愛するバルナバおよびパウロといっしょに、あなたがたのところへ送ることに衆議一決しました。 15:26 このバルナバとパウロは、私たちの主イエス・キリストの御名のために、いのちを投げ出した人たちです。 15:27 こういうわけで、私たちはユダと

シラスを送りました。彼らは口頭で同じ趣旨のことを伝えるはずですが。15:28 聖霊と私たちは、次のぜひ必要な事のほかに、あなたがたにその上、どんな重荷も負わせないことを決めました。15:29 すなわち、偶像に供えた物と、血と、絞め殺した物と、不品行とを避けることです。これらのことを注意深く避けていれば、それで結構です。以上。」

エルサレムの指導者たちが与えた条件こそが、ニコライ派の破った条件です。

次に、ガラテヤ 5 : 13 を読みましょう。

ガラテヤ 5:13 兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。

ニコライ派の人々は、肉の欲を満たすために自由を使っていました。彼らは、当時の世の中で信仰を妥協していたのです。

つぎに、バラムの教えです。

民数記 25 : 1-5 と 31 : 12-17 を読みましょう。

民数記 25 : 1-5

25:1 イスラエルはシティムにとどまっていたが、民はモアブの娘たちと、みだらなことをし始めた。25:2 娘たちは、自分たちの神々にいけにえをささげるのに、民を招いたので、民は食し、娘たちの神々を拝んだ。25:3 こうしてイスラエルは、バアル・ペオルを慕うようになったので、【主】の怒りはイスラエルに対して燃え上がった。25:4 【主】はモーセに言われた。「この民のかしらたちをみな捕らえて、白日のもとに彼らを【主】の前でさらし者にせよ。【主】の燃える怒りはイスラエルから離れ去ろう。」25:5 そこでモーセはイスラエルのさばきつかさたちに言った。「あなたがたは、おのおの自分の配下のバアル・ペオルを慕った者たちを殺せ。」

民数記 31 : 12-17

31:12 捕虜や分捕ったもの、略奪したものを携えて、エリコに近いヨルダンのほとりのモアブの草原の宿営にいるモーセと祭司エルアザルとイスラエル人の会衆のところに来た。31:13 モーセと祭司エルアザルおよびすべての会衆の上に立つ者たちは出て行って宿営の外で彼らを迎えた。31:14 モーセは軍勢の指揮官たち、すなわち戦いの任務から帰って来た千人の長や百人の長たちに対して怒った。31:15 モーセは彼らに言った。「あなたがたは、女たちをみな、生かしておいたのか。31:16 ああ、この女たちはバラムの事件のおり、ペオルの事件に関連してイスラエル人をそそのかして、【主】に対する不実を行わせた。それで神罰が【主】の会衆の上を下ったのだ。31:17 今、子どものうち男の子をみな殺せ。男と寝て、男を知っている女もみな殺せ。」

イスラエルの民は、モアブの娘たちといっしょになって彼らの神々にいけにえをささげるようにそそのかされました。民数記 31 : 16 で、この行為はバラムの教えが原因だと語ります。バラムはヘブル人の歴史で罪を犯すよう民をそそのかした邪悪な人物の代名詞です。では、ペルガモの教会の誤りについて何がわかったのでしょうか。彼らは、信仰を妥協し、町の宗教行事や性的な不品行に関わっていたのです。

4. イエスからの警告 (16 節)

イエスはペルガモの教会に悔い改めるよう語られました。そして、悔い改めないなら、イエスご自身が口の剣をもって彼らと戦うとおっしゃいました。まず注目したいのは、イエスが「彼らと」戦うとおっしゃった点です。つまり、教会全体を指しておられるのではなく、信仰を妥協した人々だけについて言及しておられるのです。

では、「キリストの剣」とは何でしょう。
ヘブル人への手紙の著者は、神のみことばがどんな両刃の剣よりも鋭いと語ります。

ヘブル 4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

パウロも、御霊の剣である神のことばについて語ります。

エペソ 6:17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。

ですから、キリストの剣とはキリストのことばです。
イエスのことばをとおして、罪が示されます。
イエスのことばをとおして、人々は真理と向き合います。
イエスのことばをとおして、人々は神のもとに立ち返るよう招かれます。
彼らはまず「悔い改め」なければなりません。それから、イエスにあわれみを求めるのです。

使徒 4 : 12 はこう語ります。

使徒 4 : 12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」

ペルガモの人々が神との正しい関係を取り戻せる方法はたったひとつ、イエスをとおしてのみです。それ以外に道はありません。
私たちも、同じです。万が一信仰を妥協してしまったら、神のもとに帰る道はたったひとつです。

5. イエスの約束 (17 節)

17 節には、すばらしい約束がふたつ記されています。
ひとつめは、イエスによって勝利を得る者には、隠れたマナが与えられるというものです。
この約束にはふたつの側面があります。
イスラエルの民が荒野で食べ物に困った時、神は天からマナというパンのような食べ物を降らせて食べさせました。

出エジプト 16 : 11-15

16:11 【主】はモーセに告げて仰せられた。 16:12 「わたしはイスラエル人のつぶやきを聞いた。彼らに告げて言え。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りるのであろう。あなたがたはわたしがあなたがたの神、【主】であることを知るようになる。』」 16:13 それから、夕方になるとうずらが飛んで来て、宿営をおおい、朝になると、宿営の回りに露が一面に降りた。 16:14 その一面の露が上がると、見よ、荒野の面には、地に降りた白い霜のような細かいもの、うるこのような細かいものがあった。 16:15 イスラエル人はこれを見て、「これは何だろう」と互いに言った。彼らはそれが何か知らなかったからである。モーセは彼らに言った。「これは【主】があなたがたに食物として与えてくださったパンです。

後に、壺に入ったマナが契約の箱に納められました。契約の箱は、幕屋の至聖所の中で神のご臨在の前に置かれました。後に幕屋は神殿へと変わりました。

(出エジプト 16 : 33-34、ヘブル 9 : 4)

当時のユダヤ人の考え方で、隠れたマナを食べるとは、神の御国が着たときに現れる新しい世界の祝福に入ることを意味しました。

ヨハネ 6 : 31-35 で、イエスはご自身のことをいのちのパンだとおっしゃいました。隠れたマナといのちのパンが同じであるとすれば、この約束は、忠実でありつづけて勝利を得る者にイエスはご自身をお与えになるという意味になります。

ふたつめの約束は素敵な約束です。

約束されたものとは、「白い石」と新しい名です。

古代社会で白い石と黒い石は、判決の表明に使われました。

黒い石は有罪、白い石は無罪を意味しました。

つまり、勝利を得る信徒は、イエスの御業のおかげで、神の目に無罪とされるということです。

また、勝利を得る者には新しい名が与えられます。

ギリシャ語で、この新しい名とは、夫婦がお互いを呼び合うニックネームのようなものです。

それは、親密さが現れた呼び名で、誰もが口にできるものではありません。

私もウェンディを呼ぶときに使うニックネームがあります。他の人がそのニックネームでウェンディを呼ぶのは不適切な行為となります。

ですから、イエスはここで、勝利を得るすべての信徒に対する深い思い入れがあると言っておられるのです。

イエスは、天国で私たちを呼ぶ特別な名前を用意してくださいませ。

なんとすばらしいことでしょう。

適用

1. イエスは、私たちが天国に行くべき時を決めてくださいます。
この世は悲しみにあふれています。若くして亡くなる人もいれば、神が天国に迎え入れてくださるまでに長い間苦しむ人もいます。
神が私たちをこの地上に置かれるのは、常に目的があつてのことです。
私が以前牧会していたイギリスの教会に、ある教会員の男性がいました。
彼は、ほとんど自宅で寝たきりでした。それで、早く死にたいと言っていました。私は、みんなのために祈るとても素晴らしい働きができるかと彼を励ました。すると、彼は何人かの人々の名前を挙げて祈り始めました。
また、私の働きのためにも祈ってくださり、私はその祈りによって祝されました。
4年後に亡くなるまで、この男性が祈る中、神は彼を励ましてくださいました。
苦労ばかりの人生でも、イエスは目的を持って私たちを今ここに置いておられます。ですから、主の目的を見出し、それに従って生きていきましょう。
2. 日本でイエスを証するのは難しくても、証しようと踏み出す私たちの一步を神は尊重してくださいませ。
3. 神が与えてくださった恵みを乱用してはいけません。
イエスとともに歩むには、みことばを読み、祈り、イエスの前に正直にならなければいけません。私たちがこうして毎日歩み続けるなら、神が愛によって私たちのうちに注いでくださった恵みを乱用してはいけません。
恵みは、私たちのためにイエスがささげてくださいました犠牲のおかげで得られる神のあわれみです。私たちは神の愛を受けるにふさわしい人間ではありません。

4. 困難であっても信仰を妥協してはいけません。そうしてしまうと、その先には不毛なクリスチャン生活が待っています。
クリスチャンは皆、この世や肉、そして悪魔と対立しています。克服するのがもっともむずかしいのは肉かもしれません。けれども、努力の甲斐はあります。自力ではとても無理ですから、聖霊の助けを求めましょう。
5. 私たちは神によって深く愛されているという事実を決して忘れてはいけません。
神に深く愛されていることを知れば、そのことで心が安定します。また、神の愛を他の人にも届ける方法を見つけようとしています。

ここでひとつ、提案があります。日常の中でこの提案を実践してみたいかがでしょう。

「互いに」と訳されたギリシャ語の単語はひとつです。

この単語は新約聖書で 100 回使われています。

その 3 分の 1 は、教会全体に向けられたもので、一致するように教えています。

1. マルコ 9:50 塩は、ききめのあるものです。しかし、もし塩に塩けがなくなったら、何によって塩けを取り戻せましょう。あなたがたは、自分自身のうちに塩けを保ちなさい。そして、互いに和合して暮らしなさい。」
2. ヨハネ 6:43 イエスは彼らに答えて言われた。「互いにつぶやくのはやめなさい。」
3. ローマ 15:7 こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。

あとの 3 分の 1 は、互いに愛し合いなさいという戒めに関連しています。

1. ヨハネ 13:34
2. ガラテヤ 5:13
3. エペソ 4:2.

15% は、へりくだることを強調した個所です。

1. ヨハネ 13:14
2. ローマ 12:10
3. ペリピ 2:3

残りはあらゆるトピックを取り上げたものです。興味のある人は、コンコルダンスを使って調べてみてください。

「互いに」を日常生活で実践してみましよう。実践する中で、神の祝福が皆さんにありますように。